

男娼を拾う話

たまごまつり

Presented by
Tamagomatsuri

人斬り女侍が

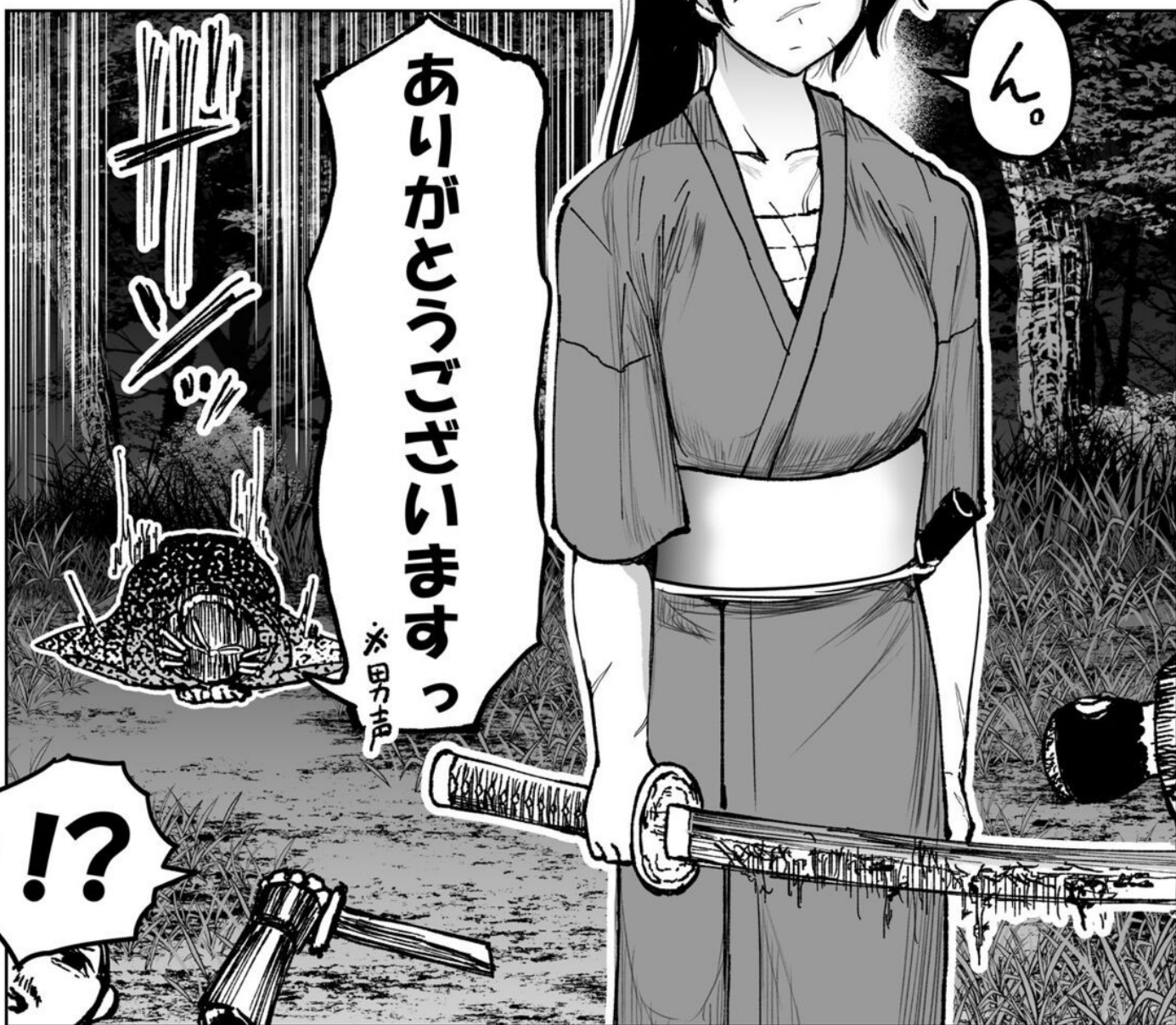
初夜



くたばれ
げろ
下郎…

江戸時代
初期…





かねめもの
金目の物は
うばわれ

※男声

次はカラダを
危うくの処っ

この御恩はっ



はっ！
その方ほう
だんしょう
男娼か！

声以外
女にしか
見えぬ。



だんしょう
男娼

なんしよく
男色の客と
寝る男の職

歳も17ゆえ

※かげまちやや
陰間茶屋も
追い出され：

※男色向け遊郭の
ような場所

スワップ

その**最中**の
おことば
その御言葉：
心も救われます





……もしや
おなご扱あつかいが
嬉しいのか？

ス



とり
あえず

うら
面白
き
生物

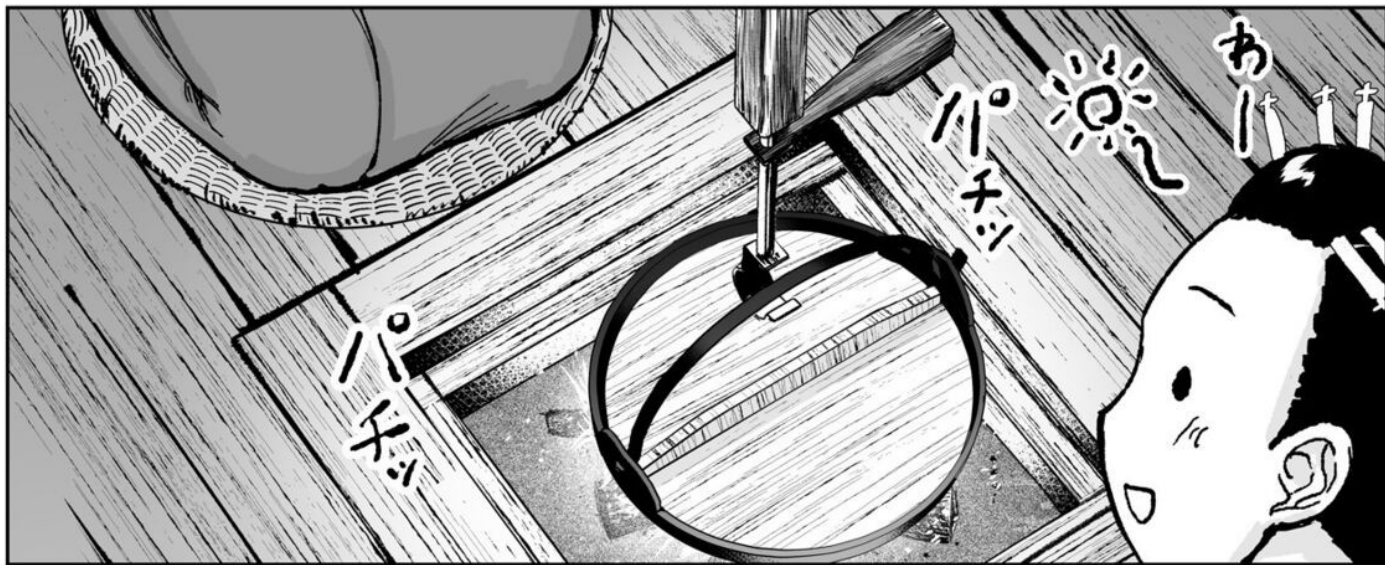


えへっ
えへっ



!

我が家に
行くか？



師匠とは
このような
空気など

終ついぞ生まれ
なんだのに

男色は

「高尚で
芸術的」

と
聞くが…

なるほど…

あーっ

…



拙者は
せっしや

パチッ

パチッ



女だぞ？

バツ

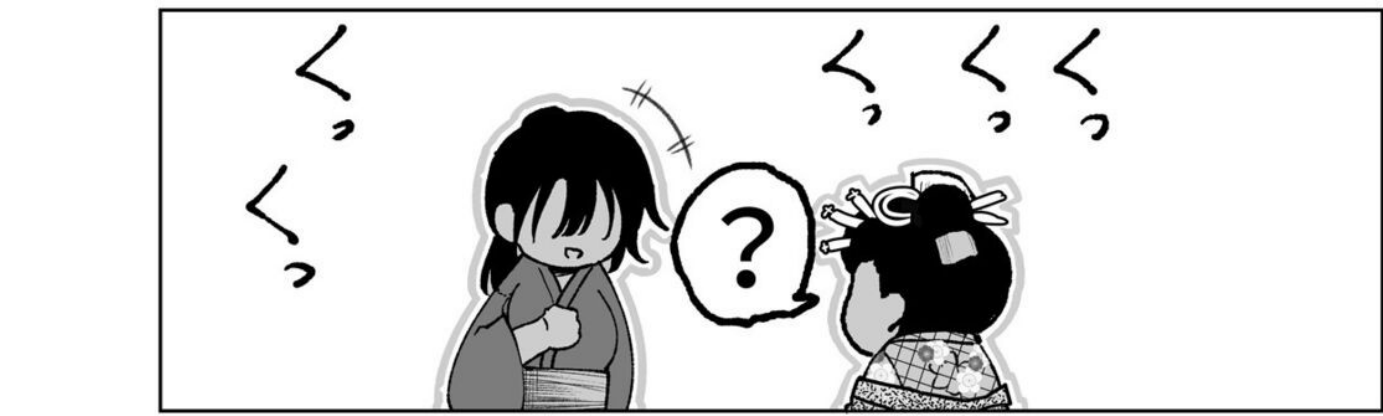
男娼は
男と……



!!



性別は
せいべつ
と
問いませぬ！

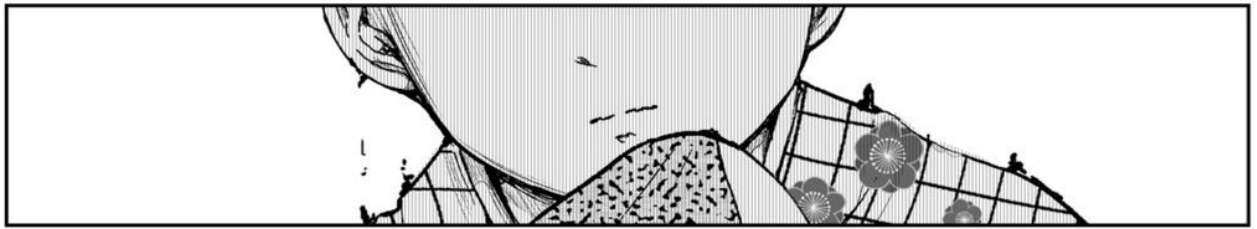


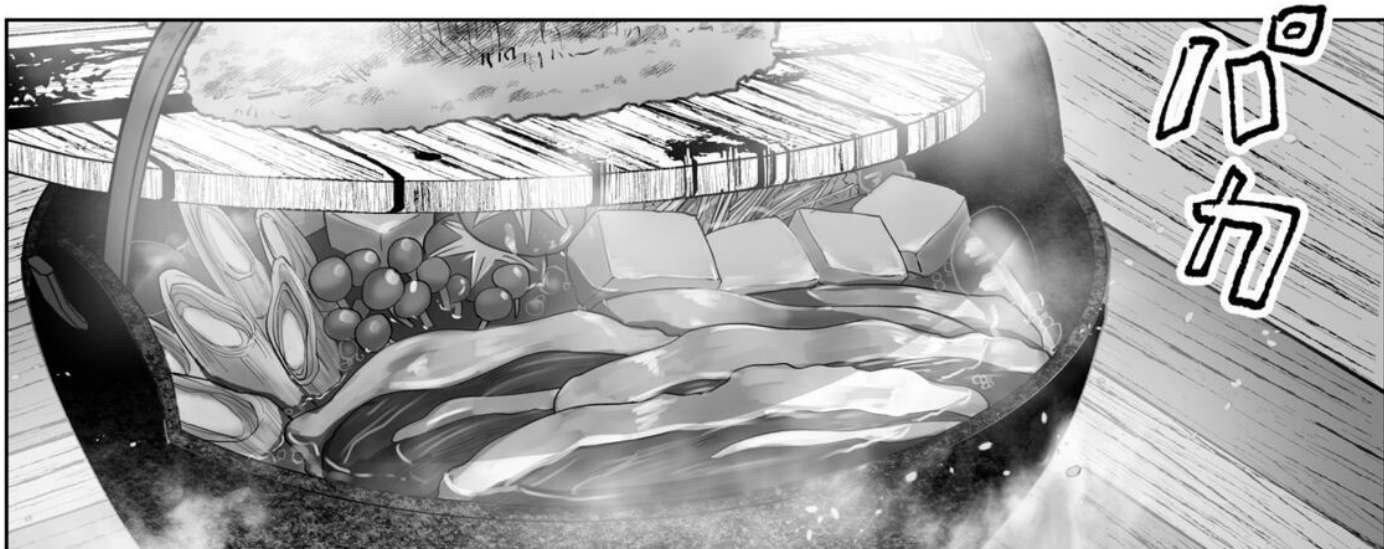
?

く
く

く
く
く







拙者も
理外の身ゆえ

興きょうが乗り
問うてみた
だけのこと

侘わびだ
食くらえ…

…っ

フクッ

…行くアテも
無いならば

拙者が拾うて
やろうか？





ふうふう

そなた
其方の気が
うつ染つた

ちこ
近う寄れ



で……
ニギハヤ
ます……

あっ
ありがたき
しあわせ……っ

人斬り女侍が男娼を捨る話



ふっ
人肌は
あたたかいな

このために
子供を宿す
気持ちもわかる



江戸時代初期は
掛け布団が無く
人肌で暖め
あったという



お侍様

陰間^{かげま}は

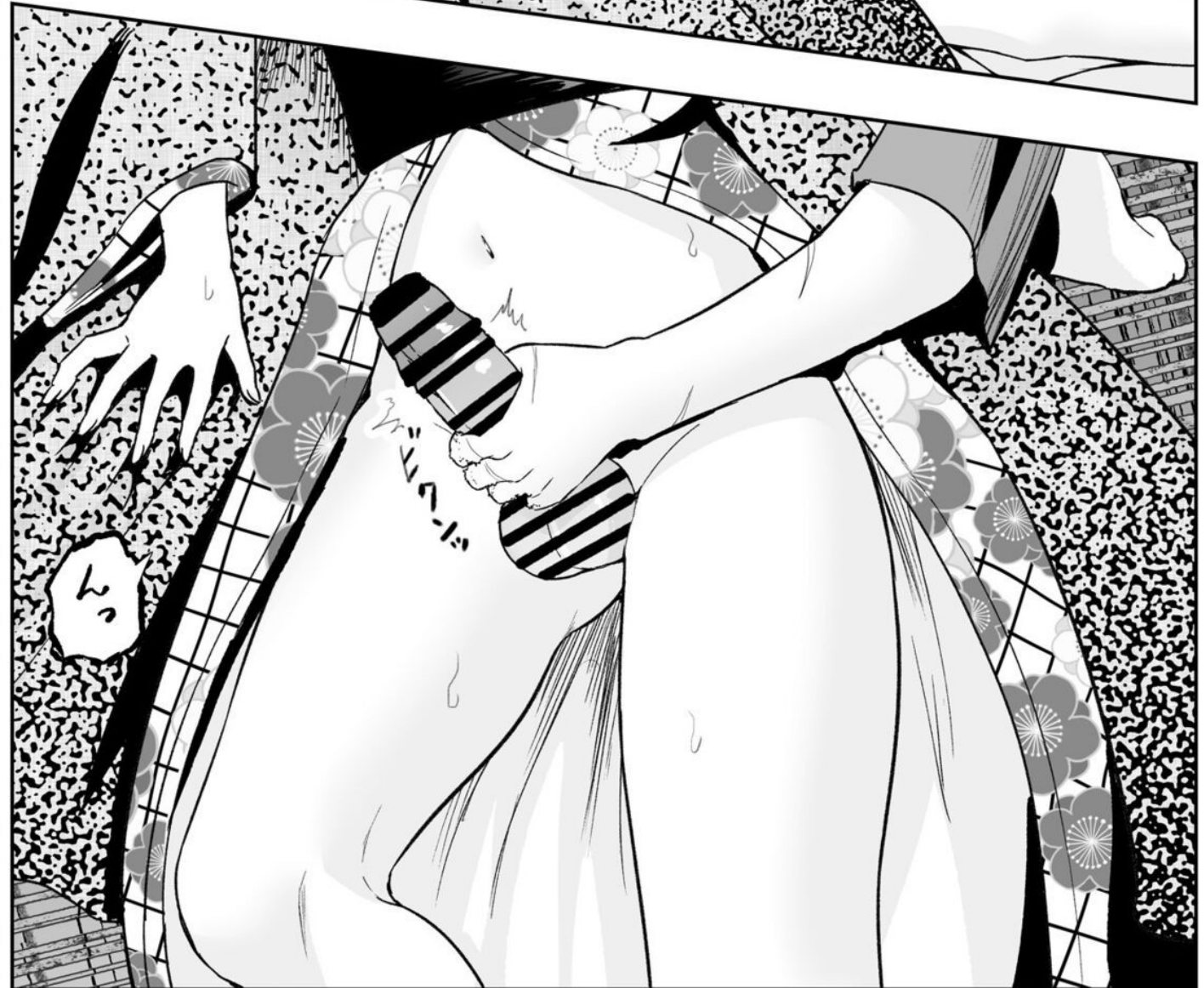


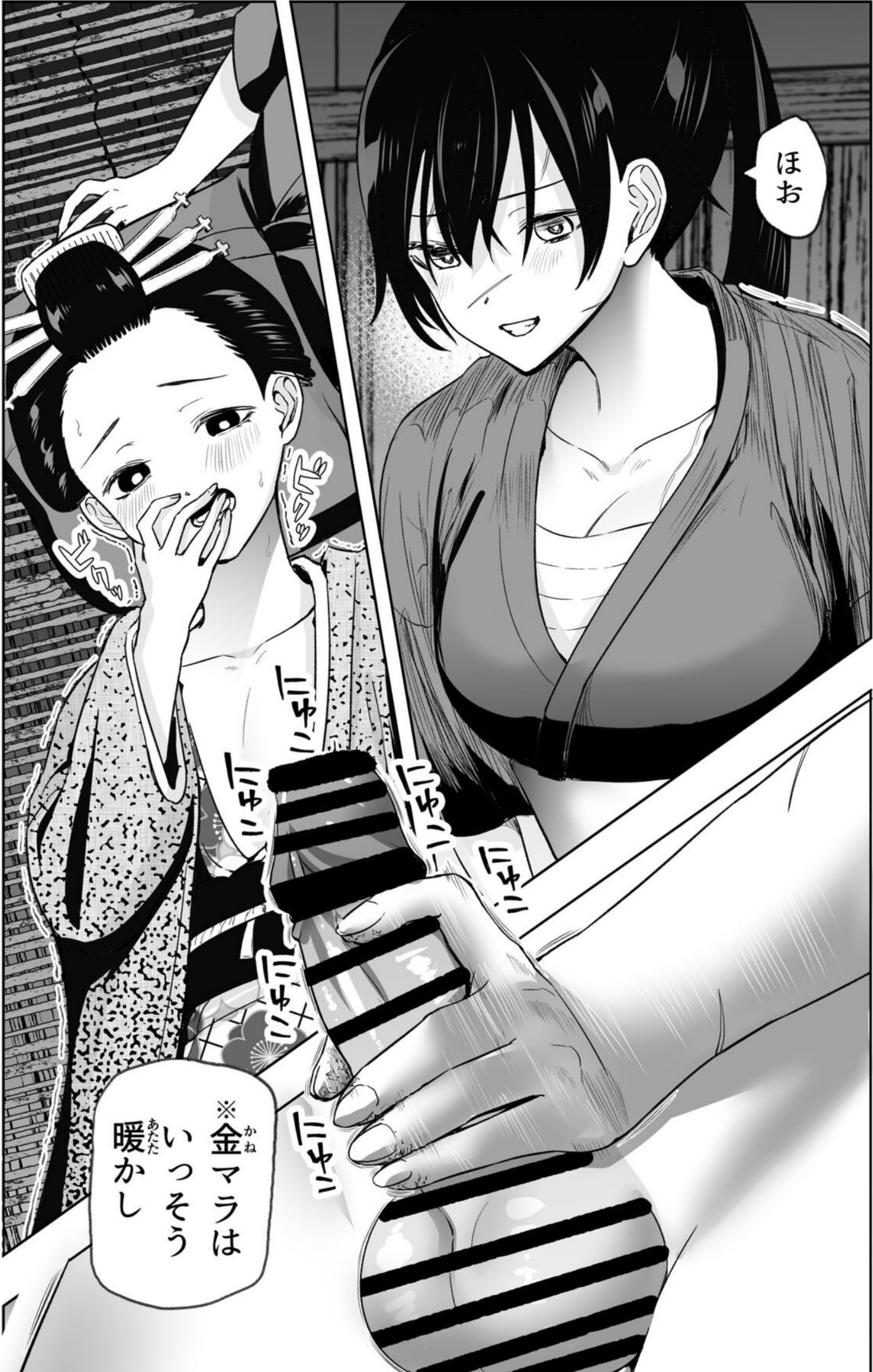
こどもや
陰間屋の
別称^{べっしやう}が
ございませう



ふっ

いじらしい
こども
陰間も
いたものだな





ほお

ニヤニヤ
ニヤニヤ
ニヤニヤ
ニヤニヤ
ニヤニヤ

※^{かね}金マラは
いっそう
^{あなた}暖かし

※ちんちんの事

おき

ふむ

存外手淫に
慣れておらぬか？

はっ

奉ずりは
すれど
逆はっ

なるほど
成程な…









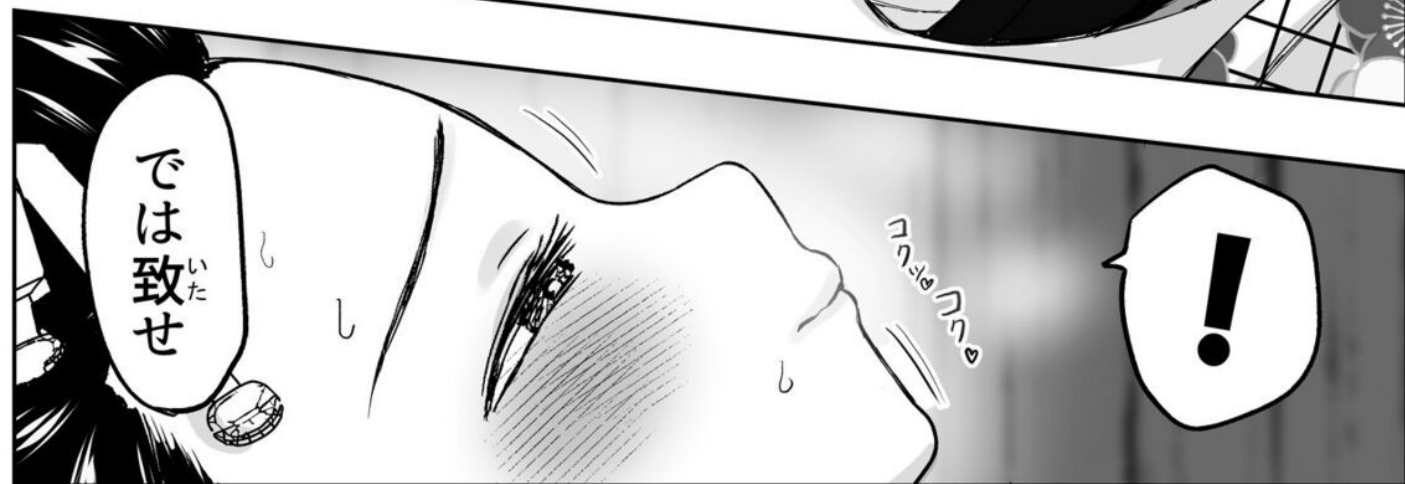


お待さまっ

それ以上はっ



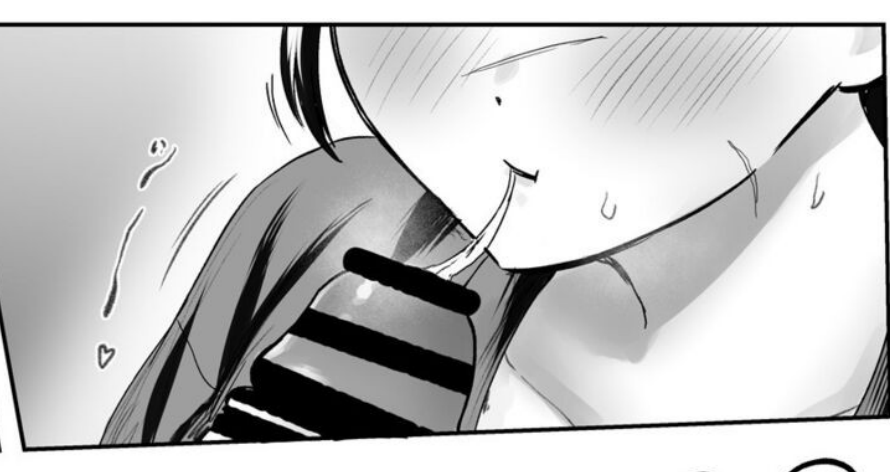
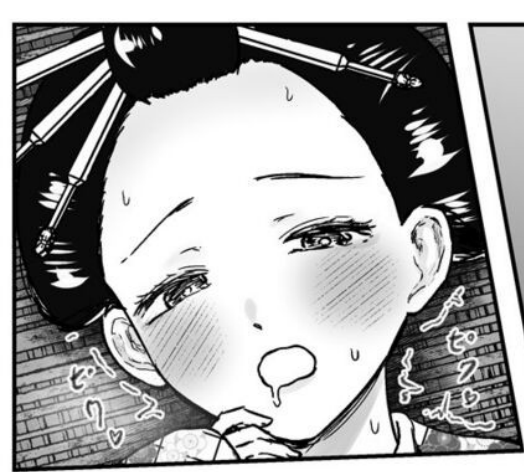
ここで出しても
まだ保てるか?



では致せ

!







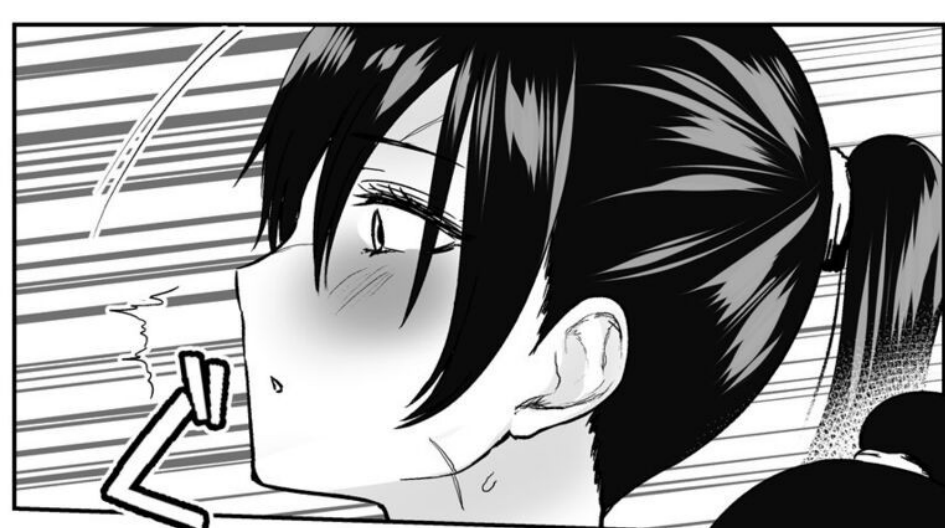
身体が
火照ってきたわ

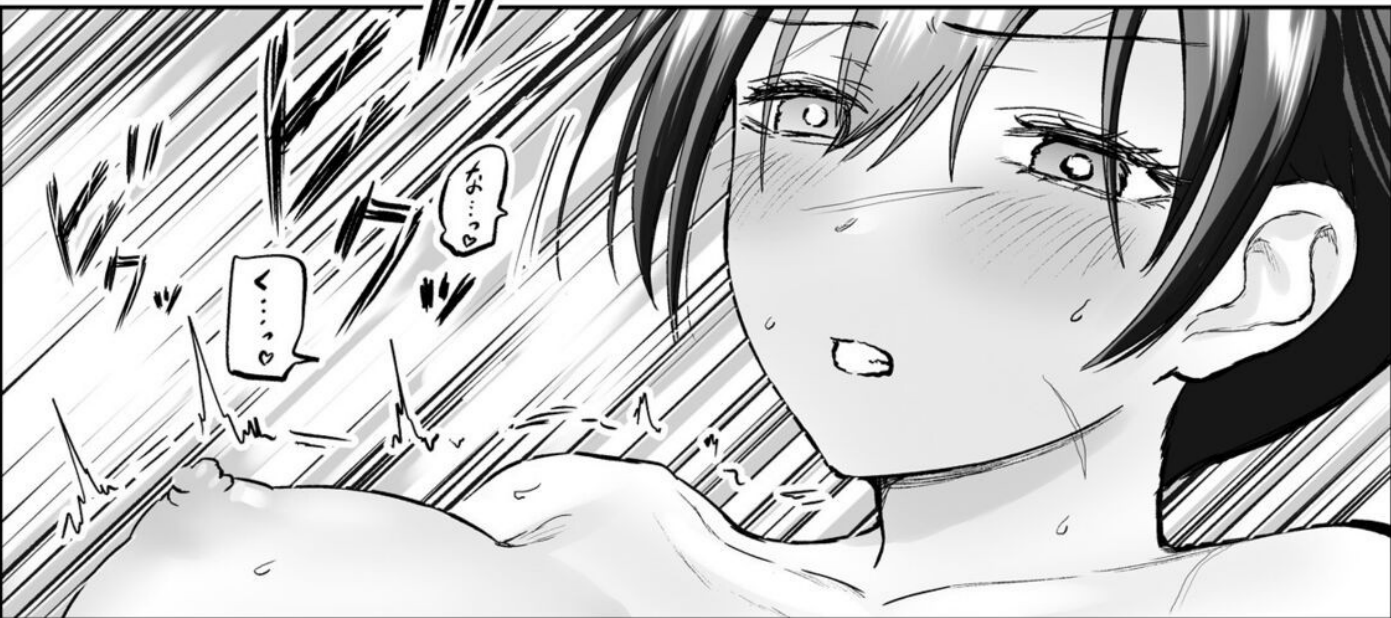
しゅわ

ささ

しゅわ

ぬき







横になれ...

も...
もう良い...っ

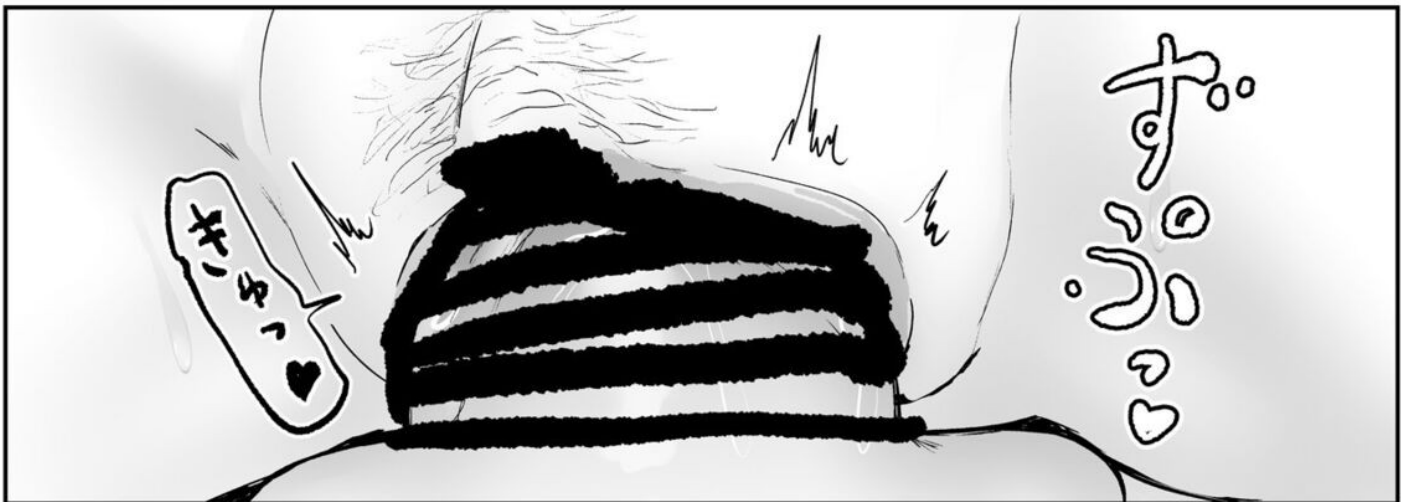
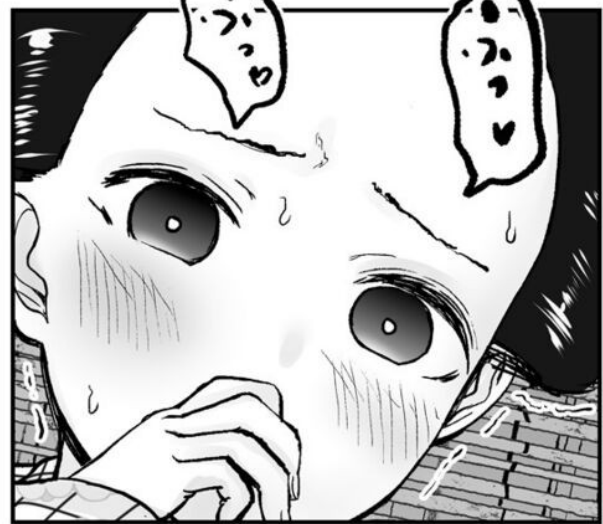
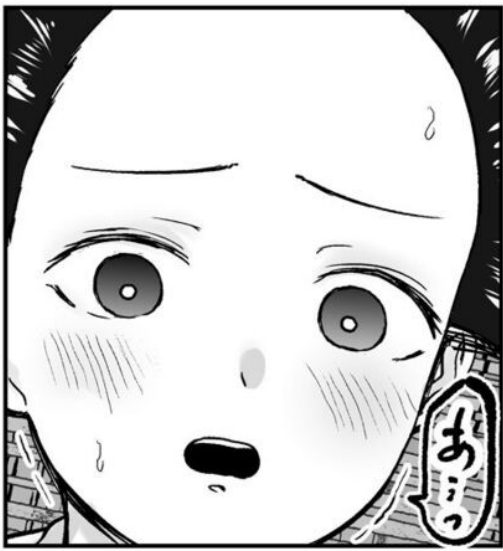


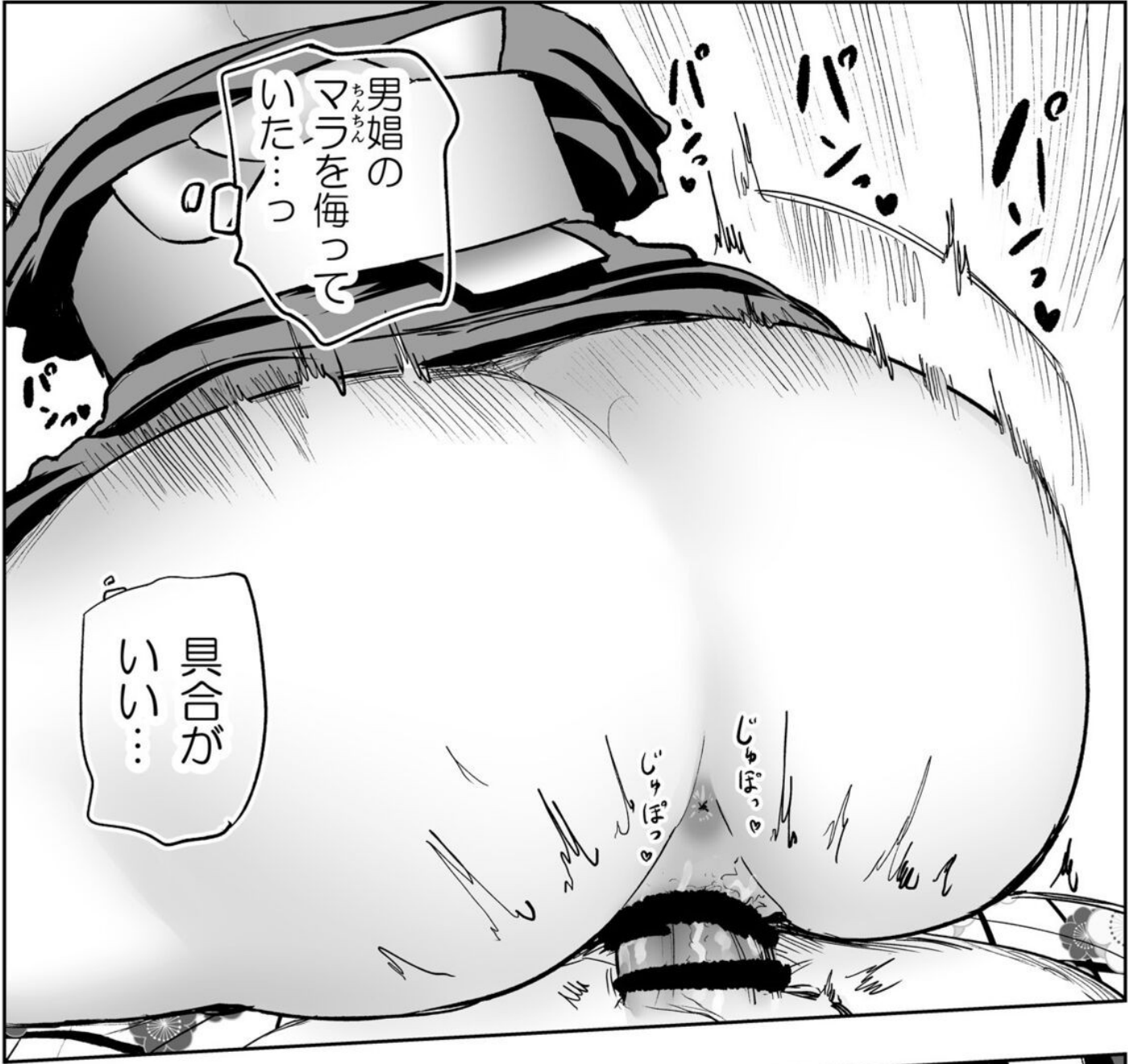
拙者が
責める...っ

は...
はい...っ

ク
チャッ

は...
はい...っ





男娼の
ちんちん
マラを侮って
いた…っ

具合が
いい…



びん



びん



あめ…あめ…

自ら慰めては
いたが…

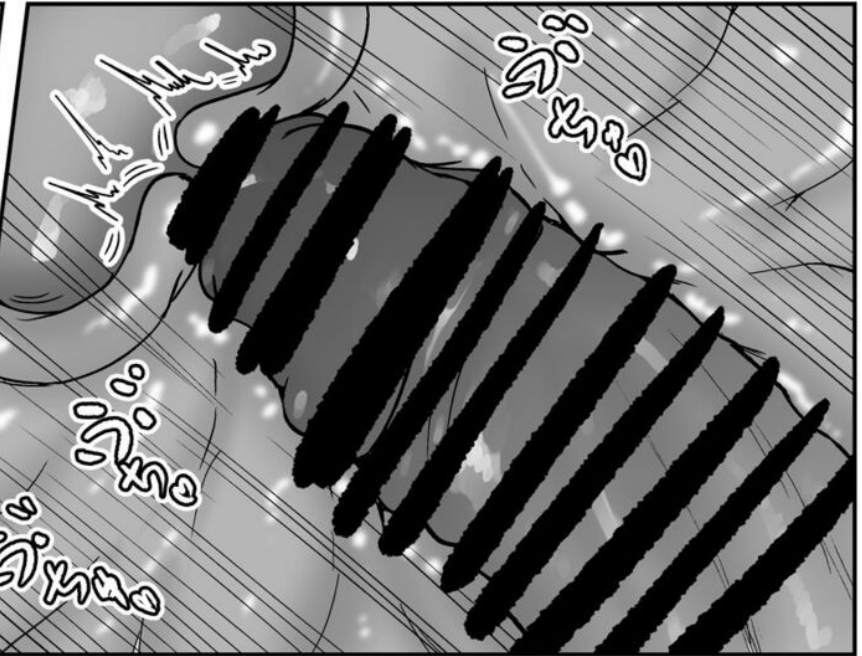
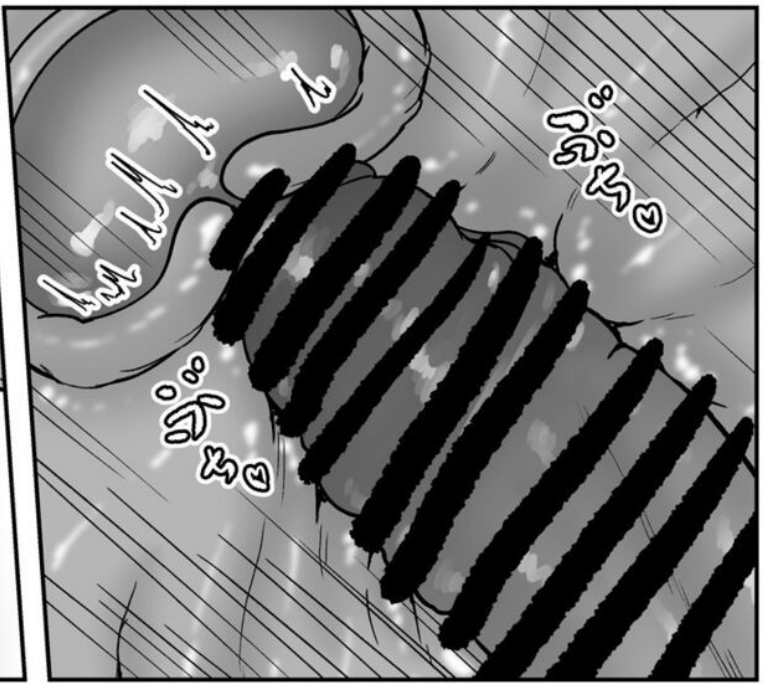
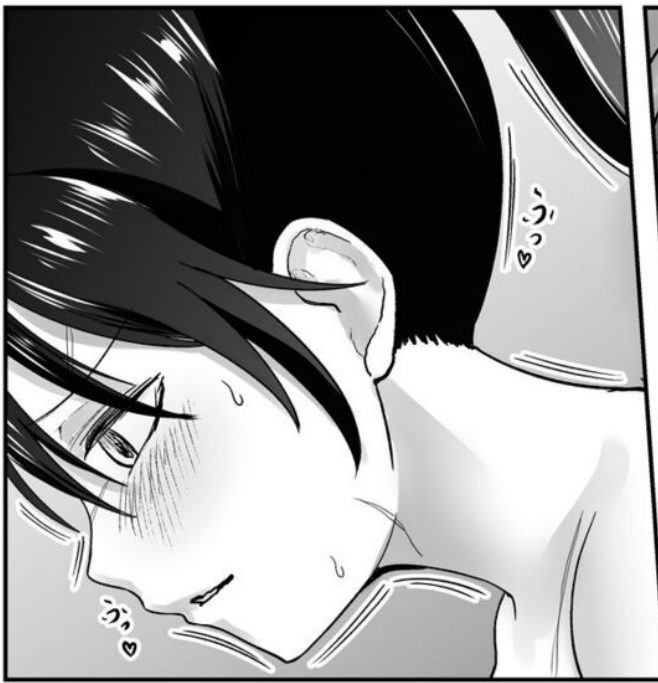


ぐんぐんぐんぐん

弱くなった
ものだ…っ



パッパッパッ







おっおっおっ

ムム

ああ...

夕方ぶりに

注がれていく...

んんんん

ムム

トトト

おっおっおっ
んんんん
おっおっおっ

お侍様…

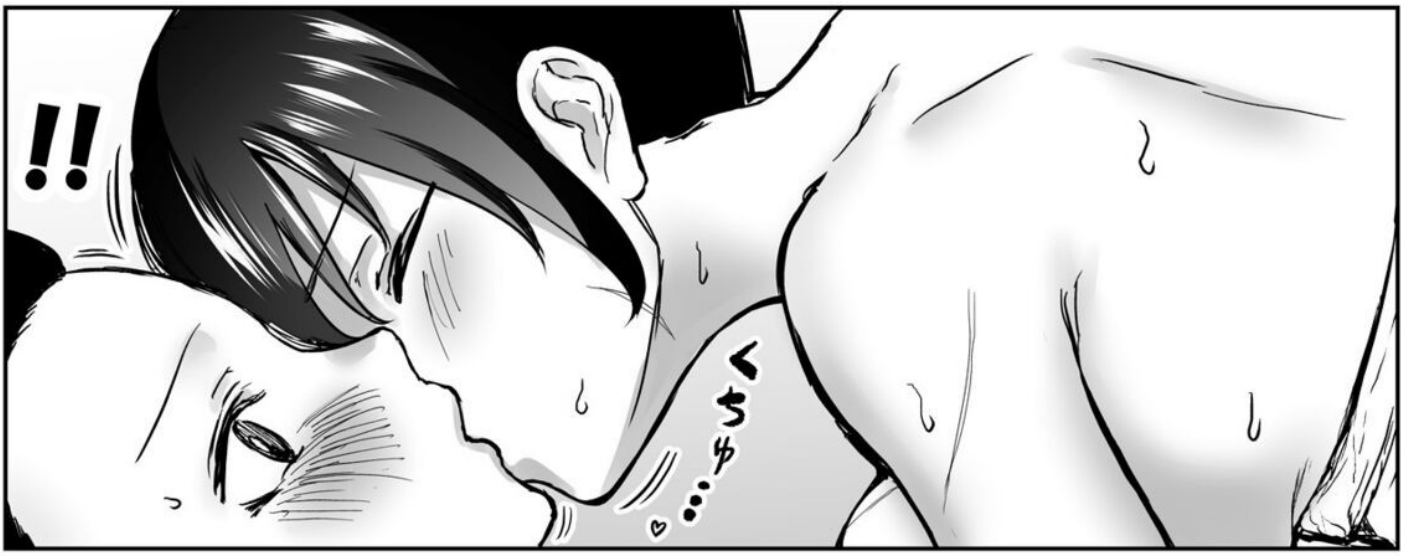
なん…
なんだ…?
ア…ア…

トポ…

私…
お侍様を…

お慕^{した}いしても…
宜^{よろ}しいですか…?





続きはX等で描く予定です。
本書を最後までお付き合いいただき
ありがとうございました。



発行日2024/07/16

発行元/たまごまつり

発行人/小祭たまご→x(@komaturi1)

発行人(作者)連絡先/→aakaroro@gmail.com

仕上げ&背景アシスタント/凧澤様→x(@iganagi)